

茨城県図画工作・美術教育研究調査委員会 授業実践研究報告(令和元年八月)

研究テーマ	発想や構想の能力を育成する学習指導の在り方 —他者との意見の交流と、鑑賞活動を通して—
-------	--

土浦市立土浦第三中学校

I 研究テーマについて

制作中アイデアが浮かばず、手が止まってしまう生徒が多い着彩の場面で、自分のイメージ通りにならないという実態を踏まえ、制作の途中段階で中間鑑賞会を行い、生徒同士でお互いにアドバイスを出し合って、制作の方針を検討する活動を行う。この研究の目的は、生徒が作品鑑賞と作品制作を地続きのものとして捉え、中間鑑賞を通して得た知識を自分の制作に生かすこと、である。そのために、単純に作品の良さを味わうだけでなく、構図やモチーフ、色がなぜそこで使われているのか自分なりに考えてみたり、そこで使われている技法を探ってみたりするような、作者の制作意図に迫るより深い鑑賞が必要である。生徒同士の意見のやり取りを繰り返すことで、自分の作品制作の方針を立てて、制作中の行き詰まりを解消しながら制作できるように支援していきたい。

II 研究の仮定

- 1 中間鑑賞を行い、アドバイスをしあう活動を行うことによって、アドバイスを生かして制作することで作品の理解をすることができるだろう。
- 2 中間鑑賞会をもつことで完成イメージを具体的にもつことができ、自分の納得のいく表現方法を用いて制作することができるだろう。

III 研究の実際

1 題材名 空想画

)

2 題材の目標

- 積極的に資料を集めなどして、アイディアスケッチ、作品制作に意欲を持って取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 資料や友達からの助言を参考にしながら、制作の段階をイメージし、計画的に制作することができる。(発想や構想の能力)
- 鑑賞や友人ととの会話から得られた技法を、自分の作品にふさわしい形で取り入れ、制作することができる。(創造的な技能)
- 画家の作品に使われている技法を理解したり、中間鑑賞で友達に具体的なアドバイスを出したりすることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

本校の生徒は、制作活動に意欲的に臨むことができている生徒が多く、制作中の質問も多く出される。しかし、4月に行ったアンケートの結果によると、制作のアイデアをうまく出すこ

とができない(26.7%), 着彩の場面で自分のイメージ通りにならない(35.1%)と感じている生徒が多くいることがわかった。また、そのことが原因で制作の後半になるにつれて意欲を失ってしまうという意見や、制作中どうすれば作品が完成につながるのかわからなくなることがあるという意見が見られた。そこで、制作の場面ごとに相互鑑賞を定期的に行い、制作の行き詰まり感を解決しながら、資料を活用したり、助言を自分の作品にふさわしい形で取り入れたりして、制作ができるように支援していきたい。

(2) 題材観

本題材では、絵本などの資料からオリジナルのストーリーを作り、そのストーリーの一場面を絵画にする空想画の制作を行う。空想画は描くモチーフを自分で決めて制作をするため、作品をより良くするための基準となる資料や中間鑑賞を取り入れることで、生徒の制作がスムーズに進められるように支援していきたい。

(3) 指導観

技術的な戸惑いから制作が止まってしまうことがないように、下地の色は大きな刷毛を用いてムラにならないように塗る等制作過程ごとの具体的な技術指導を行っていきたい。本題材は、9年生にとって中学校生活最後の絵画作品制作になる。空想画は三年間で学んだ様々な技法を取り入れやすい課題なので、今までの制作のまとめとしての意識を持たせて取り組ませたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
積極的に資料を集めるなどして、アイディアスケッチ、作品制作に意欲を持って取り組むことができる。	資料や友達からの助言を参考にしながら、制作の段階をイメージし、計画的に制作することができる。	鑑賞や友人との会話から得られた技法を、自分の作品にふさわしい形で取り入れ、制作することができる。	画家の作品に使われている技法を理解したり、中間鑑賞で友達に具体的なアドバイスを出したりすることができる。

5 指導と評価の計画(15時間扱い)

時間	学習活動・内容	評価の観点	観点別評価規準
----	---------	-------	---------

		関	思	技	鑑	
第1次 ③	アイデアスケッチ 資料集め	○	◎			・資料を基に、発想を絵や文章で説明できる形にできたか。
第2次 ②	下書き	○		◎		・アイデアスケッチを基に、鉛筆でイメージを写すことができたか。
第3次 ①	中間鑑賞				◎	・友達の作品に具体的なアドバイスが出せたか。
第4次 ③	着彩 中間鑑賞からの修正	○	◎			・中間鑑賞でのアドバイスを正しく理解し、制作に活かせているか。
第5次 ③	着彩 主モチーフの着彩	○		◎		・着彩の間中、一貫して光の方向を意識しながら、統一感のある制作ができたか。
第6次 ①	鑑賞				◎	・中間鑑賞後の自分の作品の変化を振り返ることができたか。
第7次 ③	着彩 主モチーフの着彩完成			◎		・主になる色を重ねて、細部まで描ききることができたか。

6 指導の実際

(1) [中間鑑賞までの見通しをもった学習計画]

制作途中での中間鑑賞を6月の1週目に行った。中間鑑賞を行う3週間前から、中間鑑賞までに終わらせておく工程をあらかじめ指示しておき、生徒が期日を意識して制作できるようにした。また、制作の工程ごとに使う材料や道具が違うため、教室を区切って工程ごとに場所を決めた。その場所で作品制作をするようにして、自分の制作の段階を周囲と比べやすい環境にした。

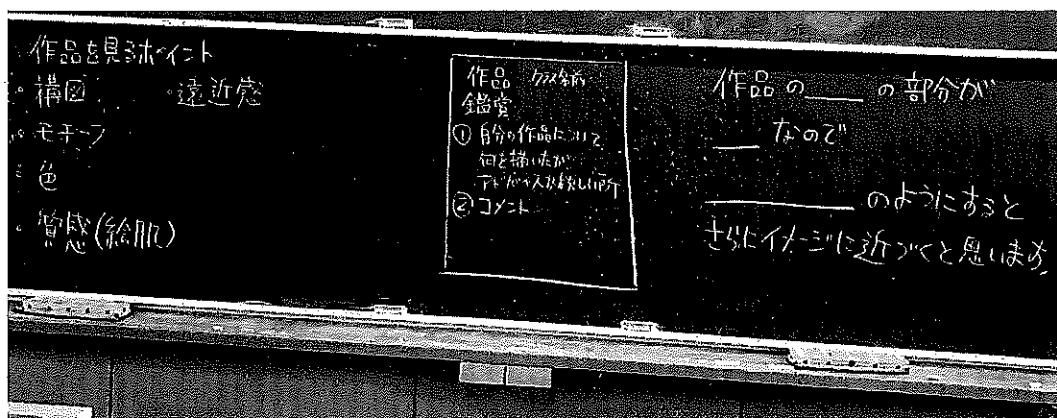
中間鑑賞では、最初に、中間鑑賞を行う目的とこれから活動の流れを生徒に伝えた中間鑑賞は、友達との作品に対する意見のやり取りを通して作品を修正し、これから先の制作活動の方針を立てるためのものであるということと、完成した後のまとめの鑑賞で、中間鑑賞から作品がどのように変わったのか振り返りを行うということを説明してから活動を始めた。

(2) 中間鑑賞のあり方

次に、中間鑑賞でのルールや心構えについての説明をした。鑑賞のあり方として、作品の

良い部分を認めたり、改善を要する部分を指摘したりするだけで終わらせず、より良く修正し、良い部分をさらに伸ばすためには、どうすれば良いかといったアドバイスを、必ず書くことを生徒達に説明した。また、鑑賞中に友達の作品に必要と感じる表現にせっかく気がついても、自分がその表現ができないため、アドバイスするのをためらってしまう生徒がいた。そのため、アドバイスは自分の実力に関係なく、相手のために行うものであるということを伝えた。加えて、アドバイスを書いた生徒は、書かれた側の生徒が制作中に質問をしてきた時には相談にのつて制作の手伝いをすることと、アドバイスを受けた側は指摘を真摯に受け止めて、制作に生かす意識を持つことを説明した。具体的なアドバイスを書くことが難しい生徒のために、「作品の～の部分が～なので～のようにするとさらに良くなると思います。そのためにこれから制作では～をすると良いです。」などといった、アドバイスの文章の型を提示し、構図、モチーフ、色、質感等いくつかの作品を見るべきポイントを示した。(資料4)

資料4 中間鑑賞での板書



鑑賞活動は、まず自分の制作でうまくできていると感じる点、苦労している点をワークシートに書き、(資料5)そのワークシートと自分の作品を自分の机に置く。次にそれぞれが移動して、お互いの作品を鑑賞する。その際の鑑賞の手順としては、移動してきた生徒は、ワークシートに書いてあるうまくできていると感じる点や、苦労している点を読んだ後に作品を鑑賞し、コメントやアドバイスを書いた。鑑賞より先に制作した生徒の作品に対する思いを読むことで、作品を見る視点を絞って鑑賞することができるため、制作者が悩んでいること、行き詰まっていることに対してのアドバイスを、鑑賞者が適切に書くことができていた。また、アドバイスを書く際には記名とした。このことで、アドバイスに対してより詳しく聞きたいと思った制作者に、さらに具体的にアドバイスすることができた。鑑賞後、友達からのアドバイスを生かして今後の方針を立てる場面では、これからやるべき事を文章で書くとともに、色も含めた完成予想図を

ワークシートに描かせて、イメージを具体的なものにした。方針が立てられない生徒には、資料集を用いて色の組み合わせや模様のパターンなどの参考例を見せて、発想しやすいよう支援、助言を行った。その後の授業では、中間鑑賞で立てた方針をもとに、完成まで制作を行った。制作中には、アドバイスをくれた生徒に作品の修正点を相談しながら、熱心に制作に取り組む様子が見られた。

資料5 ワークシート 制作者の苦労点及びアドバイス

正面の右側にモチーフがうまく立たなくて思ってます。何を描きたいと
いうか、どうなものがいいか自分で考えてみないと。

色のぬりわけ方がいいね!
黒と白がハッキリ分かれすぎるも、と自然な感じで

モチーフで“かわいい!!” いい→光のあたりがいい
色あざやかで“良いや!!” もう少し、うすめに塗ると、どうか感じると思う!! けは(す)
色がよくあわせこめて本当に多い。これからが楽しみだ。(西園)

色がとてもきれいです! がんばってください! がんばれ!

海の中身の色背景は水色にした方がいいと思うこと

(4) 完成直前に行うまとめの鑑賞

まとめの鑑賞では、制作した作品の良さを味わうとともに、中間鑑賞からの制作活動の振り返りを行った。振り返りで気づいたことを制作に生かせるようにするために、作品を完成させる直前の授業でまとめの鑑賞を行った。中間鑑賞で書いたワークシートを再び配り、友達からもらったアドバイスや、そこで立てた方針を見返して、その後の制作にどのように活かせたか、ということを確認し、ワークシートに記入した。ワークシートには、「中間鑑賞で、～さんから主役のモチーフが目立たないので主役以外のモチーフの色を抑えるようにアドバイスをもらったので、刷毛を使って薄めた背景の色で主役以外のモチーフを塗りました。」等、中間鑑賞のアドバイスから作品の修正ができたという意見や、「複数あるモチーフの位

置関係を修正するのが難しかったので、書き込むモチーフの数を調整して時間を作り、位置と形を修正しました。」等限りがある制作時間の中での時間配分を意識したという意見も見られた。その後、中間鑑賞の時と同様に、友達との意見交換を行い、完成までの残りの制作での方針を立てた。そこでは、残りの制作時間を考え、自分の作品に最も必要と思われるアドバイスを一つだけ選んで作品に生かすように指導した。

IV 研究の成果と課題

1 成果

- ・ 中間鑑賞としての相互鑑賞会を行い、アドバイスをしあう活動を行うことによって、鑑賞でのアドバイスを生かした制作をし、作品がどのように変容したかを自分自身で理解するとのできる生徒が多く見られるようになった。
- ・ 制作工程ごとの鑑賞を行い、しっかりととした作品の完成イメージを持った上でアイデアスケッチ、下地、下書き、着彩に臨めたことで、作品完成後のアンケートで納得のいく制作ができた、自分のイメージにあった表現の仕方を考えて制作をすることができたと答える生徒は、中間鑑賞会を取り入れた制作を行う前のアンケートと比べて25.3%増えた。

2 課題

- ・ 教えて伝えるのではなく、生徒たちが自ら作品を通して、制作に必要な知識に気づくという経験をさせるために、場の設定や発問の質を高めていく。
- ・ 中間鑑賞を行う回数や、活動を何人のグループで行うのか等について検討する。
- ・ 中間鑑賞の内容と効率的なもち方を考える必要がある。
- ・ 普段から画家の作品に触れ、紹介するといった経験のできる場を設定し、生徒の美術作品を鑑賞をする際の批判的思考力を育てていく。

※参考資料

- ・ 中学校学習指導要領解説美術編
- ・ アメリア・アレナス著、木下哲夫訳『人はなぜ傑作に夢中になるの』(淡交社、1999年)
- ・ 学力をのばす美術鑑賞 ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズどこからそう思う?
- ・ アメリア・アレナス著、木下哲夫訳『みる・かんがえる・はなす』(淡交社、2001年)
- ・ わかる!できる!うれしい!3STEPで変わる「魔法」の美術授業プラン 明治図書出版